

2011年度受託研究概要報告

歴史文化ウォッチング業務

研究メンバー

川北健雄	環境・建築デザイン学科教授
山之内誠	環境・建築デザイン学科准教授
長濱伸貴	環境・建築デザイン学科准教授
金子晋也	環境・建築デザイン学科助手
不破正仁	環境・建築デザイン学科助手
三友奈々	環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市文化遺産活性化実行委員会

研究概要

三木市の中心部には、城跡、歴史的街道、町家、邸宅、寺社等の様々な歴史文化資源が存在しているが、それらは必ずしも有効にまちづくりに生かされてはいない。そこで、これらの存在を一般の人々に広く認知してもらい、体験を通して各場所の持つ意味や価値を共有するためのひとつの仕掛けとして、昨年度に実施した「Play Town MIKI!」の続編として「Play Town MIKI! 2012」と題した歴史文化ウォッチングを企画実施した。

方法としては、前年度と同様に次代を担う子どもたちとその親の世代の関心を高めることをねらいに、親子参加による体験型のスタンプラリー形式の1日型のイベントとして実施した。すなわち、主催者側でいくつかの見学地を選定し、小学生を含む親子連れのグループ単位で参加を申し込んでもらい、それぞれのグループで複数の

見学地を訪ね歩いてもらった。前年度は7箇所の見学地を設定したのに対して、今年度は6箇所の「公開スポット」で何らかの体験をしてもらうのに加えて、16箇所の「おもしろスポット」を設定し、普段見過ごしてしまいがちではあるが、良くみると興味深い特色があるような場所に立ち寄りながら、まち全体をきめ細かく巡ってもらえるようにした。また、今回の企画を単なる一過性のイベントとせず、選定した「公開スポット」や「おもしろスポット」の歴史文化的価値を解説した記録を、今後にも役立つ資料として残すことを意図して、6箇所の「公開スポット」と16箇所の「おもしろスポット」すべてについて、写真と簡単な説明文を掲載した「パスポート (MIKI-CITY PASSPORT)」を制作し、それがスタンプ帳としての役割を果たすようにした。



図1 パスポート表紙(裏と表を広げた状態)



図2 最初のページ見開き

研究成果

イベント当日に実施したアンケートの結果から、今回のイベント「Play Town MIKI!」は、昨年と同様に、三木の中心市街地と周辺の住宅地の両方からの参加者を得て、保護者と子どもたちの双方に、たいへん好評であったことが確認できた。参加してみての感想を尋ねると、保護者用アンケートでは、ほとんどの人から、まちの歴史や文化についての関心が高くなったことを示す回答が得られた。また、子どもたちが特に楽しく感じたのは、各所における体験型の作業であることも明らかになった。さらに、今回設定した「公開スポット」や「おもしろスポット」の中には、このイベントの実施によって、多くの人々が初めてその存在を知ったり、訪れたりした場所が、多く存在したこともわかった。

昨年度と今年度のアンケート結果の比較からは、昨年よりも今年の方が、まちの歴史や文化についての関心が高くなったり、このようなワークショップに参加したいと思う人の割合が増えている様子を読み取ることができた。

以上の結果から、今回のイベントは、人々の三木の歴史や文化に対する認識や関心を高める上で、たいへん有意義であったと判断することができる。また、このような事業を継続的に実施することが、より多くの人々に、三木の歴史や文化についての理解を広めていく上で有効であると考えられる。参加者の中には、このようなワークショップの企画運営に積極的に関わってみたいと思う

人も多かったことから、今後は、一般の人々に企画運営にも協力してもらうようなイベントを実施できる可能性も高く、市民参加型のまちづくり活動に向けての発展が期待される。



図3 公開スポット記載ページ



図4 おもしろスポット記載ページ